

どの活動も5領域が重なり関連しています
1つの活動で多くのスキルが伸びていきます

06

【心理的な安全】

ご本人の感情、
思いを大切に

01

【健康・生活】

一人ひとりの観
察を丁寧に行う

スマイル

5領域+安全

05

【認知・行動】

認知機能への
働きかけを意識

【運動・感覚】

「やりたい」
「やってみよう」
の気持ちから
伸ばしていく

02

【人間関係・社会性】

小さなやり取りから
発展することを大切に

【言語・コミュニケー
ション】

ひとりに合わせた工夫

04

03



どの活動も5領域が重なり関連しています、1つの活動で多くのスキルが伸びていきます

5領域・ねらい	支援内容	事業所の取り組み(例)
<p>【健康・生活】</p> <p>健康状態の維持・改善/生活のリズムや生活習慣の形成/基本的な生活スキルの獲得</p> <p>①健康状態の把握</p> <p>②健康の増進</p> <p>③リハビリテーションの実施</p> <p>④基本的な生活スキルの獲得</p> <p>⑤構造化等により生活環境を整える</p>	<p>①特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察</p> <p>②睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援、病気の予防や安全への配慮</p> <p>③それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う</p> <p>④身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援</p> <p>⑤生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化</p>	<p>一人ひとりの観察を丁寧に行う</p> <p>身だしなみ 心身の健康観察 リラックスできる場 トイレトレーニング 基本的な生活スキル向上 特性に合わせた環境調整と構造化 視覚的にわかる指示や表示 など</p>
<p>【運動・感覚】</p> <p>姿勢と運動・動作の向上/姿勢と運動・動作の補助的手段の活用/保有する感覚の総合的な活用</p> <p>①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上</p> <p>②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用</p> <p>③身体の移動能力の向上</p> <p>④保有する感覚の活用</p> <p>⑤感覚の補助及び代行手段の活用</p> <p>⑥感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応</p>	<p>②姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援</p> <p>③日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う</p> <p>④保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援</p> <p>⑤保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援</p> <p>⑥感覚や認知の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援</p>	<p>「やりたい」「やってみたい」の気持ちから伸ばしていく</p> <p>粘土遊び スライム遊び 絵具遊び 畑で土いじり 野菜の収穫 ハンモック スラックライン バランスボール 公園遊具 自転車練習 音楽活動でリズム運動 川遊び、水遊び 散歩 プール 自立課題 など</p>
<p>【認知・行動】</p> <p>認知の発達と行動の習得/空間・時間、数等の概念形成の習得/対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p> <p>①感覚や認知の活用</p> <p>②知覚から行動への認知過程の発達</p> <p>③認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p> <p>④数量、大小、色等の習得</p> <p>⑤認知の偏りへの対応</p> <p>⑥行動障害への予防及び対応</p>	<p>①視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援</p> <p>②環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援</p> <p>③物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援</p> <p>④数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援</p> <p>⑤認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮、また、こだわりや偏食等に対する支援</p> <p>⑥感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援</p>	<p>認知機能への働きかけ</p> <p>日付、曜日、スケジュールの視覚化 タイムタイマーの活用 季節を感じる行事 工作 調理 自立課題 職員が見本、手本となる など</p>

どの活動も5領域が重なり関連しています、1つの活動で多くのスキルが伸びていきます

5領域・ねらい	支援内容	事業所の取り組み
<p>【言語・コミュニケーション】</p> <p>言語の形成と活用/言語の受容及び表出/コミュニケーションの基礎的能力の向上/コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>①言語の形成と活用</p> <p>②受容言語と表出言語の支援</p> <p>③人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得</p> <p>④指差し、身振り、サイン等の活用</p> <p>⑤読み書き能力の向上のための支援</p> <p>⑥コミュニケーション機器の活用</p> <p>⑦手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用</p>	<p>①具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援</p> <p>②話し言葉や文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援</p> <p>③個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援</p> <p>④指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援</p> <p>⑤発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援</p> <p>⑥文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援</p> <p>⑦手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援</p>	<p>一人ひとりに合わせた工夫</p> <p>職員や友達からのあいさつ言葉かけ マカトン、手話、ジェスチャーの活用 絵カードの活用 タブレット活用 アプリ活用 帰りの会の発表(話す、聞く) カードゲームやボードゲームの活用 集団活動で遊びながら無理なくSST 読み聞かせ など</p>
<p>【人間関係・社会性】</p> <p>他者との関わり(人間関係)の形成/自己の理解と行動の調整/仲間づくりと集団への参加</p> <p>①アタッチメント(愛着行動)の形成</p> <p>②模倣行動の支援</p> <p>③感覚運動遊びから象徴遊びへの支援</p> <p>④一人遊びから協同遊びへの支援</p> <p>⑤自己の理解とコントロールのための支援</p> <p>⑥集団への参加への支援</p>	<p>①人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築きその信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援</p> <p>②遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援</p> <p>③感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援</p> <p>④周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援</p> <p>⑤大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援</p> <p>⑥集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援</p>	<p>小さなやり取りから発展することを大切に</p> <p>集団遊び 勝ち負けのあるゲーム トラブル回避、解決 失敗は成功の基を覚える 外出機会の提供 買い物体験 地域イベントへの参加 法人内作業見学、体験 職員が見本、手本となる など</p>
その他	支援内容	事業所の取り組み
<p>【心理的な安定】</p> <p>情緒の安定に関すること/状況理解と変化への対応に関すること/障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>①感情の理解を助ける</p> <p>②子どもの感情の乱れに対処する</p> <p>③日常生活で実践</p> <p>④愛着障害を予防</p>	<p>①子どもの言葉に耳を傾け、行動を客観的に観察し、子どもが抱いているであろう感情を言語化するサポート</p> <p>②深呼吸を促す、寄り添って一緒に時間を過ごす、子どもの感情を認める</p> <p>③意見を尊重し、選択肢を提供することで、自己決定の能力を育てる</p> <p>④子どもと同じ高さで目線を合わせる、ほめる</p>	<p>ご本人の感情、思いを大切に</p> <p>話を聞く機会の提供 感情が乱れたときはご本人に合わせて時間をかけて対応 自己決定、意思決定の機会の提供 など</p>

スマイルともにー 支援プログラム

法人理念/事業所基本方針	障害者（児）の自立支援を行うことで、共生社会を実現する/自立（自律）支援を行い、地域で過ごすための力が身につくよう協力
運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で適切な療育が受けられる場を提供 ・子どもたちが安心して楽しんで通える場所を提供 ・子どもたちの良い個性に合わせ療育支援を行う ・利用者家族も心豊かな暮らしが続けられるよう、必要な時に、必要な支援の提供ができる身近な療育の場を目指す

※参考：別表1（スマイル5領域ねらいと取り組み）

プログラム	支援内容（5領域+心理的な安定） どの活動も5領域が重なり関連している ※詳細は別資料「スマイル5領域」 利用者の希望や適性に合ったサービス支援の提供を行う、自然豊かな立地を利用した支援を提供
来所準備	挨拶、来所時の流れの確認、連絡帳出し、手洗いうがい など 【認知・行動】 【健康・生活】 【言語・コミュニケーション】
個別課題・宿題	本人の気持ちや状況に合わせ提供と手伝い、利用者にあった自立課題 【心理的な安定】 【健康・生活】 【認知・行動】
野外活動（体験）	お出かけ、買い物、畑、自転車、スラックライン、ボール遊び、プール・川・水遊び、魚釣り、昔遊び、昆虫・爬虫類観察 など 【健康・生活】 【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】 【心理的な安定】
室内活動（体験）	創作、工作、バランスボール、ハンモック、PC、カードゲーム、ボードゲーム、知育玩具、映画鑑賞、お手伝い、音楽活動 など 【健康・生活】 【運動・感覚】 【認知・行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】 【心理的な安定】
ライフスキル	<p>ライフスキル向上に向けた取り組みの援助を行う</p> <p>身だしなみ：髪型や外観などを整えたり、清潔にしたり、相手や季節に応じて調節できるスキル</p> <p>健康管理：肥満や睡眠不足などを防ぎ、健康を保つ、自分の体調の変化を把握し、必要があれば医療機関を利用するスキル</p> <p>住まい：掃除やゴミ捨て、整理整頓などの住まいの上で重要なスキル</p> <p>金銭管理：お金の無駄遣いや借金を控え、計画的に使ったりなどのお金の概念やひとりで買い物をしたりするスキル</p> <p>進路選択：進学や就労に向けて、自分に合った道を探したり選んだりする先の見通しを立てて行動するスキル</p> <p>外出：一人で外出したり、予定した時間や場所、費用に合わせて移動したりするスキル</p> <p>対人関係：マナーやルールを学び、人間関係で大きなトラブルを起こさないようにするスキル</p> <p>余暇：体をリラックスさせるなど、自由に使える時間を勉強や趣味に使わず、上手に配分しながら使うスキル</p> <p>地域参加：家庭や通学先だけではなく、地域主催の行事や集まりなどに参加できるスキル</p> <p>法的な問題：犯罪行為や金銭トラブル、悪質な訪問販売などに巻き込まれないための法に関わるトラブルを起こさないこと</p>
帰りの会	正しい姿勢、送りの車の把握、発表をする、発表を聞く、拍手する、挨拶 など 【認知・行動】 【言語・コミュニケーション】 【人間関係・社会性】 【心理的な安定】

家族支援

【アタッチメント（愛着）の安定】（見学会開催、親子参加行事の立案、懇親会開催、家族参加行事の立案、個人面談 等）

子どもの信頼感を育み、感情や不安に寄り添い、周囲と安定した関係を継続できるようにしていく

【家族からの相談に対する適切な助言等】

困りごとに対する相談援助、発達のニーズについての気づきの促しとその後の支援、介助方法について助言・提案、レスパイト時間の確保、保護者同士の交流情報交換の機会の提供、きょうだい同士の交流機会、きょうだいに対する相談援助

【障害の特性に配慮した家庭環境整備】

発達の状況や特性の理解に向けた相談援助、講座、ペアトレの実施

移行支援

【放課後児童クラブへの移行、ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備】

移行を見据えた子どもの発達の評価・支援、移行先との調整、移行先と支援方針・支援内容も共有やこどもの状態・親の意向・支援方法についての伝達、家族への情報提供や移行先の見学調整、移行先の受け入れ体制づくりへの協力・相談援助、本人や家族への相談援助

【併行利用先との連携（併行利用している場合）】

子どもの状態や支援内容の共有、利用日数や利用時間の調整

【地域における仲間づくり】

放課後児童クラブ・児童館・地域住民との交流

地域支援・地域連携

【こどもに関わる地域関係者・関係機関と連携した支援】

情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助、計画の作成又は見直しに関する会議開催、保健師や医療機関との情報連携や調整、発達支援センター・医療的ケア児支援センター・地域生活支援拠点・相談支援事業所・福祉サービス事業所・通所支援事業所との生活支援や発達支援における連携、虐待が疑われる場合、児童相談所やこども家庭センターとの情報連携、児童委員主任児童委員等地域の関係者等と連携、ケース会議開催

職員の質の向上

【OJT及びOFF-JTや法人内外の他事業所との交流により、職員一人ひとりの知識力・支援力を高めていく、】

障害特性理解の研修、障害児支援に関する研修、社会モデル意思決定支援の研修、虐待防止・権利擁護研修、強度行動障害支援者養成研修 等

主な行事

【季節などに合わせ、様々な行事の提供】

※別紙参照：事業計画内「年間行事」